

話 題

I. EANDC 第 11 回 会議 報告

百田光雄 (日本原子力研究所)

昨年 2 月のイスタンブールでの会議に続く第 11 回の EANDC の会議が本年 3 月 11 日から 16 日の間モントリオールで行なわれた。出席者は ENEA の人事移動により Smets 氏に代つて Perret 氏が委員となつた外に、スエーデンの Starfelt 氏、USA の Taschek 氏からそれぞれ Condé 氏、Motz 氏に交代した。

前回と同様に各国から提出されたプログレスレポート、論文 (本号資料欄にリストが載せてある) についての質議応答と討議があつたが、ユーラトム諸国からの論文数が 32、UK からのそれが 23 で、USA を含む他の国々からの論文数を大きく引きはなしていた。これはユーラトムの BCMN (ゲール)、カルルスルーエならびに UK の研究活動が系統的組織的に計画されていることに由来すると判断される。活動が最盛期に入つた BCMN の Pu-240 の subthreshold fission に関する報告 (E-110) は非常に興味あるものであつた。また目下ハーウエルに留学中の原研浅見明氏の仕事ぶり (UK-98, UK-99) は注目を引いた。

新しい実験装置についての各委員からの報告は、核データに直接関係したものは比較的少なく、ハーウエルの 5 MV バンドグラフ加速機が改造されること、サクレーのリニアツクの改修増力が来年に期待されること、カルルスルーエの AVF サイクロトロンの中性子飛行管が 180m に延ばされること、ベルギーで分裂生成物用のオンラインセパレータが作られることなどであつた。このほかカナダの強力中性子源計画、USA プルツクヘブンのダブルタンデム設置 (1969 年 4 月完成予定)、ロスアラモスのメソン工場の計画、オークリツツの陽子リニアツク計画、フランスサクレーの新しいリニアツクの計画、スイスのメソン工場の計画などが簡単に説明された。

測定要望リストと測定の現状の照合は前回会合 (JNDC ニュース第 5 号 p.18 (1967 年 8 月)) 以後の分について行なわれた。従来のリストには UK からの要望として、U-235, Pu-239 の分裂断面積に対する 0.5% という精度の要望をはじめとして幾つかの高精度の要望があり、そのような当分は実現不可能な精度の要望の意味について、EANDC と EACRP の間で討論が行なわれていたが、UK はそのような要望を Priority I の要望¹⁾ (原子力開発のため緊急に必要とされるデータ) からはずりさげることになつた旨報告された。測定要望リストと測定の現状の照合についてはその他に格別の大きな進展はなかつた。

核データ測定についての国際協力については、 $\bar{\nu}$ 、非弾性散乱、捕獲断面積の測定についての情報交換の状況が報告されたほか、Pu-239 の α の値の不一致を検討するために Joly と Havens のところにデータを集めるようにすることが申し合わされ、さらに IAEA にこの問題についてのパネルを 1969 年に行なうよう勧告することになつた。また安全査察の技術を開発するに

あつていろいろな核データが必要になり、そのためにUSA、ドイツでは既に検討が開始されているが、この面でも新たな国際協力が必要となるであろうことについて注意が喚起された。

会議の最終日はカナダの強力中性子源の計画についての **topical discussion** にあてられたが、これについては項を改めて記す。

次回の会合は来年1月20～24日ブラツセルで行なわれることになつた。その折の **topical discussion** のテーマは標準断面積か或は特定の核データについての評価かのいずれかから後日選ばれることになつた。

-
- 1) EANDC 61 "U" (Jan. 1968), **Compilation of EANDC Requests for Neutron Data Measurements, p. IX.**